

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー		モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a12 健やかに生きる			
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部			
テーマ責任者	小澤 寛樹	責任部局	医歯薬(医学系)	
趣 旨	このモジュールでは脳科学の視点から人間性というものを考え、理解することをめざします。 大学を出れば社会人になる。それは自動的に大人になる、ということなのだろうか？大人(おとな)とはいったいどういうものなのか？そもそも「人間」とは何なのか？しっかりと人間性を育む。しっかりと人間になる。そして「大人」になる。意識して生きる必要があります。では「意識」とはいったい何か？どこにどうあるのか？それは私たちの「脳」・地球上の生命の進化史上、最大の進化産物です。単なる「知性」ではない、「精神性」をも育む組織器官。それはある意味では単なる神経の塊という物質なのです。物質から「心」が生まれる。脳によって世界を見る。もちろん「眼」をとおして「視覚」によって世界を把握しています。ビジョンを獲得する。マインドを育む。人間性の根源を脳科学から考えていきます。			
学生の皆さんへのメッセージ	しっかりと物事を見ることは大切です。自己意識をしっかりともちつことも大切です。自分とはいったい何なのか？人間とは何か？自分と他者はどう違うのか？同じなのか？今、人間を理解するためには脳を理解することが重要です。脳科学の視点から自分を考える、他人を思いやる。そして、また一歩深く自分を理解する。大人への階段を登る。そのためには、脳を掘り下げることが必要です。自分の脳の中を、心の中を探ってみて下さい。			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
映画から学ぶライフサイクルとメンタルヘルス	小澤 寛樹 木下 裕久 松坂 雄亮 森本 芳郎	「映画」を観る。疑似体験をする。そして、感動する。人間は現実と虚構の世界を知っている。自分を取り巻くライフサイクルとメンタルヘルスの実情を「映画」から学んでみよう。そして、身近な現実を時に離れて、広い世界を考えてみよう。精神的な安定性を保つヒント、それは脳のどこかに隠されている。	ニューロン、グリア、神経、脳、物質と心、精神性、ヒューマニティー、長崎県
発達症(発達障害)の理解と支援	今村 明 岩永 竜一郎 金替 伸治	自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症などの発達症(発達障害)は脳神経系の発達のかたよりにより生じるものと考えられ、最近では小学生の10人にひとりには発達症の特性を持つものと推測されている。同様の発達症の傾向を持つ児・者も、周囲がその傾向を理解し適切な対応を行うことで、社会的適応の度合いは大きく変化する。映像資料を用いて、自分自身の傾向も含めて発達症について学び、理解を深める。	発達症(発達障害)、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症
ヒトはなぜ病気になるのか	川上 純 吉浦 孝一郎 佐藤 克也 川尻 真也	ヒトはなぜ病気になるのだろうか？病気になるリスクを予測して、病気を予防することはできるのだろうか？急速に進む高齢化社会の中で、私たちはどのように病気と向き合えば良いのだろうか？解明が進む病気の研究内容を紹介しながら、それを日常生活に取り組み工夫も本モジュール科目では解説する。	遺伝子、環境、生活習慣、癌、高齢化

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑩ 考えをやり取りする力	⑪ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文学科の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
映画から学ぶライフサイクルとメンタルヘルス		○	○	○	○		○			○	○	○	○	○
発達症(発達障害)の理解と支援	○	○		○					○	○	○		○	
ヒトはなぜ病気になるのか	○	○					○		○		○			
◎(特に重視)の数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
○(重視)の数	2	3	1	2	1	0	2	0	2	2	3	2	2	1

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a13 生命を多次元で哲学する		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	池松 和哉	責任部局	医歯薬(医学系)
趣 旨	我々人間は生き物の一種である。しかし、「生きる」ということは一体どういうことで、どういう意味があるのか？「生きる」、すなわち「生命」とは何か？この命題は古代より永遠の質問として繰り返され続けています。皆さんの答えは如何でしょうか？本モジュールでは、この生命を科学し、そしてその意味論を哲学することを目的としています。生命の最小単位である細胞、またその細胞が60兆個集まって個体を形成した人間、そしてその人間が集まって作り上げた秩序社会という新たな生き物。これらの次元の異なる生命体の本質に迫り、最終的に各自の生命観を確立することを目的とします。		
学生の皆さんへのメッセージ	我々は、多分生きていますが、そのことをどの程度考えて毎日を送っているのでしょうか？このモジュールで、まずは「生命」に関する正確な知識を身に付けましょう。膨大な不確かな知識は、百害あって一利もありません。覚えるだけ時間の無駄でしょう。正確な知識は例えば数は少なくとも確かな創造をもたらします。生命を3つの次元、つまり「細胞」、「個体」、「社会」に分けて、その実態を正確に把握し、そして考えましょう。「生命」とは何か？自分は何所から来て何所へ行くのか？そしてその存在の意味とは何か？こういった基本的な問い掛けの中で、「生命」についての自分なりの価値観を確立しましょう。それが、皆さんの今後の人生を堅固なものにし、王道を歩ませる筈です。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
細胞生命を哲学する	小路 武彦 柴田 恭明 田中 邦彦 林 日出喜	細胞は生命の最小単位と見なされている。この科目では、細胞の出現と進化、つまり偶然と必然の狭間で完成された見事で小さな生命体について、細胞内構造とそれぞれの機能及び調節、自他の認識の機構と意味論、破壊的で破滅的な癌細胞の生き方、そして最終的に訪れる死、といった観点について科学する。その過程で、驚きの真実とその意味するところを哲学し個体へと思考を展開する素地を養う。	細胞構造と機能、 細胞増殖と分化、 自他の認識機構、 癌細胞生物学、細胞死
地域社会に生きる個体生命を哲学する	森 亮一 林 洋子 朴 盛俊 下川 功	細胞単位、遺伝子レベルで解明されている疾病も、個体レベルの症候として表出される表現形は多彩であり、さらにこれが個体へ及ぼす影響となると多面的になる。例えば癌においても、年齢、性別、発生臓器によりその様相は異なり、個体は社会におけるヒトとしてこれを捉えていく必要がある。細胞と社会の接点に生命体として存在する個体生命を哲学することで、科学的な理解を越え哲学的アプローチにより生命観に迫る。	癌、認知症、老化、 肥満、長崎県
社会生命を哲学する	梅原 敬弘 池松 和哉	人間はいつか死を迎えるが、その最期は様々である。死、死に至る過程、老化、医療について社会的な面から考えるための素材を各講師が講義する。学生にも発表形式での参加をしてもらうこともある。	生と死・社会医学

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
細胞生命を哲学する	◎	◎	◎	◎	◎		◎					◎		
地域社会に生きる個体生命を哲学する	◎	◎	◎		○	○	◎		◎	◎		◎	◎	○
社会生命を哲学する			◎		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
◎(特に重視)の数	2	2	3	1	1	1	3	1	2	2	1	1	3	1
○(重視)の数	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a14 教育と文化		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	内野 成美	責任部局	教育学部
趣 旨	<p>教員免許を取得するにあたり、学校教育教員にとって身につけておかなければならない教職についての教養として、教育や学校について理解し、基礎的な知識を修得します。また、教育者には幅広い教養を身につけることが求められます。必修科目であるモジュールⅠでは、教育の理念や歴史・行政と制度・教育課程にある児童生徒の心理等について学びます。そしてモジュールⅡでは、文学と社会・自然科学・芸術・環境・教育相談から自身の興味に応じて選択し、各分野について教育現場(学校や地域社会)との関わりから学んでゆきます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>教員免許の取得を希望される学生は受講してください。モジュールⅠの科目及びモジュールⅡの「教育相談」は教員免許取得のための必須科目です。また、教育に興味・関心のある方も歓迎します。なお、本モジュールだけでは、当然ながら教師に必要な素養のすべてを得ることはできません。ここで得たものを糧にして、積極的に幅広い教養を身につけてください。</p>		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
教育相談	内野 成美	教育相談の意義や過程、児童生徒理解の領域と方法、教育相談を行う際の教師としての留意点などの知識や理解を深める。また、演習も踏まえながら教育相談の実践的な技法を学ぶ。	教育相談、生徒理解、予防的・開発的カウンセリング
美術の魅力を探る	牧野 一穂 米田 耕司 金原 雅樹 宮崎 友里子	美術における表現の喜びや感動を学ぶ。美術と向き合う人間のあり方を探り、はじめての日本画に挑戦することで、美術の魅力を訴求する。また、スクールプログラム・表現プログラム・アート作品鑑賞等を通して、美術館の役割について考える。	クリエイティブな発想、実技、アートイベント、ワークショップ、長崎県美術館
芸術	中川 泰	美術・工芸における表現や鑑賞の喜びや感動を学ぶ。実技や鑑賞を通して、人間を日常的なしほりから開放したり、身近な造形の発見や創造を可能にしたりするような表現・鑑賞方法を探る。	工芸、鑑賞、創造、セルフエスティーム、長崎県

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
教育相談	○	○			○	○	○	◎	○		○		◎	◎
美術の魅力を探る	◎	◎	○	○	○		○	○	○	○	◎		◎	○
芸術	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎
◎(特に重視)の数	1	2	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	3	2
○(重視)の数	2	1	2	2	3	2	2	2	3	1	2	1	0	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a15 教育と社会		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	内野 成美	責任部局	教育学部
趣 旨	教員免許を取得するにあたり、学校教育教員にとって身につけておかなければならない教職についての教養として、教育や学校について理解し、基礎的な知識を修得します。また、教育者には幅広い教養を身につけることが求められます。必修科目であるモジュールⅠでは、教育の理念や歴史・行政と制度・教育課程にある児童生徒の心理等について学びます。そしてモジュールⅡでは、文学と社会・自然科学・芸術・環境・教育相談から自身の興味に応じて選択し、各分野について教育現場(学校や地域社会)との関わりから学んでゆきます。		
学生の皆さんへのメッセージ	教員免許の取得を希望される学生は受講してください。モジュールⅠの科目及びモジュールⅡの「教育相談」は教員免許取得のための必須科目です。また、教育に興味・関心のある方も歓迎します。なお、本モジュールだけでは、当然ながら教師に必要な素養のすべてを得ることはできません。ここで得たものを糧にして、積極的に幅広い教養を身につけてください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
教育相談	内野 成美	教育相談の意義や過程、児童生徒理解の領域と方法、教育相談を行う際の教師としての留意点などの知識や理解を深める。また、演習も踏まえながら教育相談の実践的な技法を学ぶ。	教育相談・児童生徒理解・カウンセリング・
身のまわりの科学	福山 隆雄	地球の誕生から生命の誕生に至る地球 46 億年の歴史について学ぶ。また、地圏システムについて理解し、私たちが住む現在の地球における環境問題などの諸問題について、自ら考察することのできる基礎知識を身につける。	地球、生命、歴史、地圏、環境
環境と社会	藤本 登 高橋 甲介	環境と社会(私たちの暮らし)の繋がりについて、持続可能な発展のための教育(ESD)の視点で見つめ直し、持続的に生活や社会制度の改善に寄与できる能力を身につけることを目的とする。そのために、エコロジカル・フットプリントや高レベル放射性廃棄物問題、共生社会と人間発達の多様性などを題材に、世界から求められる人物像や社会のあり方、必要な技術、制度について論究し、日本の環境と社会、そして他者との関わりや自身のあるべき姿を探る。	ESD、LCA、環境教育、環境問題、エネルギー問題、共生社会、インクルーシブ教育、多様性の尊重、他者理解

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えるやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
教育相談	○	○			○	○	◎	◎	○		○	○	○	◎
身のまわりの科学	◎	◎	○	◎	○	○	○		○	○		○	○	◎
環境と社会	○	○	◎	○	◎		◎	○	◎			◎		◎
◎(特に重視)の数	1	1	1	1	1	0	2	1	1	0	0	1	0	3
○(重視)の数	2	2	1	1	2	2	1	1	2	1	1	2	2	0

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a16 環境と社会生活		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	関 陽子	責任部局	環境科学部
趣 旨	このテーマでは、環境と人々の社会生活との関係について、歴史的側面、社会的側面、経済的側面を中心に講義します。自然科学的側面からの説明も、環境問題の原因について触れる際に、必要に応じて行います。そして、環境と人々の社会生活とのあり方について、講義の中で学んだことを踏まえて、生活者の視点から考えていきます。		
学生の皆さんへのメッセージ	省エネなど日々の環境行動から、大規模開発に伴う環境破壊に対する市民運動まで、環境を考えることは人々の暮らしと密接に関係しています。慣れ親しんだ地域で公害が生じ、生活が壊された人々の動きなど、過去の具体的事例を交え、社会的側面、歴史的側面、経済的側面を中心に皆さんと一緒に学び、考え、議論したいと考えています。		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
生態系と社会	山本 裕基 服部 充	人類が生態系から様々な恵みを受けてきたこと、生態系が人間活動の影響を受け、大きく変化しつつあるなかで、生態系サービスも低下していくおそれがあることについて理解する。これらの現象が各地で起きていることを提示し、その対策について、経済や政策面からの考察を与える。	生態系、生態系サービス、気候変動、生物多様性、経済社会、長崎県
環境と社会運動	保坂 稔 友澤 悠季	ドイツ緑の党、日本の脱原発や水俣病を例に、公害環境問題の市民運動、住民運動の経過について理解する。政府、企業、専門家との対立や協力の相互作用のなかでの市民運動、住民運動の役割を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。	公害環境問題、市民運動、住民運動 長崎県
環境問題の歴史から学ぶ	白川 誠司 五島 聖子 関 陽子	一般に環境問題は80年代以降に世界的に知られるようになったと言われているが、それ以前にも大規模な自然破壊や、これにとまなう生体の健康に与える深刻な影響が報告されている。この講義ではこうした事例を踏まえながら、環境問題の歴史をローカルとグローバルの両観点から把握してゆく。	環境問題、自然破壊、生体への影響、自然保護

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を	C 取り入れる 現代的な話題を	D アクティブ・ラーニングの活用
生態系と社会	◎	○	○	◎	○	○	◎		○	◎	○	◎	◎	○
環境と社会運動		○	◎		◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	○
環境問題の歴史から学ぶ	○		◎		○	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○
◎(特に重視)の数	1	0	2	1	1	2	3	0	0	3	2	3	2	0
○(重視)の数	1	2	1	0	2	1	0	2	3	0	1	0	1	3

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a17 環境と社会の共生		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	濱崎 宏則	責任部局	環境科学部
趣 旨	グローバルな環境問題を考える際にローカルな地域社会の視点は重要です。大量消費型社会から脱却し、循環型社会の形成を達成して社会の持続的発展を促すために、現在のさまざまな資源利用のありかたを考察し、将来的にどのような資源利用と管理のありかたが望ましいのかを考えることが必要です。この「環境と社会の共生」では、地域の資源の特色に合わせた資源利用と管理のありかたを地域の実例とともに考えます。		
学生の皆さんへのメッセージ	環境問題は、皆さんの現在のライフスタイルに直結しています。資源利用と管理が実際の生活にどう結びついているのかを考えながら、資源の動向を決定づけているメカニズムや組織を理解することによって、地域における環境と社会の共生の在り方を理解すると同時にグローバルな資源問題への理解へつなげます。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
資源管理論	濱崎 宏則 重富 陽介	土地資源、水資源、森林資源、水産資源、エネルギー資源等さまざまな資源が持つ特質を理解し、資源配分を決める経済的、政治的しくみと管理について地域の実例を挙げながら概説します。	グローバル社会、資源管理、意思決定、資源の希少性、コモンズ
地域の環境を考える	深見 聡 黒田 暁	多様な地域の環境には、様々な可能性があります。過度な経済効率性の追求や、いわゆる都市部からの視点からではなく、地域がもつ固有性に注目した持続可能な社会のあり方について考えます。	地域の視点、環境教育、観光公害、地域再生、環境自治、長崎県
廃棄物の管理と処理	竹下 哲史	廃棄物の処理に関する法律等を理解するとともに、廃棄物の分別を体験し、廃棄物のマネジメントに関する知識と理解を深める。	廃棄物の処理、廃棄物のマネジメント

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A	B	C	D
											人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
資源管理論		◎	○	○	○	○			◎	◎		◎	○	◎
地域の環境を考える		○	○		○		○	○	○		○	◎	◎	○
廃棄物の管理と処理	○	○	○	○	○		○		◎	○		○	◎	◎
◎(特に重視)の数	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	2	2
○(重視)の数	1	2	3	2	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a18 情報社会を考える		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	丹羽 量久	責任部局	ICT基盤センター
趣 旨	現代の情報社会を積極的に生きるためには大量の「情報」をうまく活用していかなければなりません。本モジュールでは、こうした情報社会に適応するために、情報がどのように利用されているのかを多角的に知り、かつそれを解釈・活用・表現するための方法について学びます。		
学生の皆さんへのメッセージ	今日の社会では、大学での学習・研究だけでなく、どんな場面でも「情報活用」が不可欠になっています。皆さんが卒業後の社会生活においても活躍していけるよう、本モジュールにてさまざまな知識と技能を身につけてください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
情報と社会	丹羽 量久 福澤 勝彦 鈴木 斉 上繁 義史	実社会における「情報」について、次の観点から考えます。それぞれを理解し、説明できることを目標とします。 ・ 経済学的視点から理論とその限界について学ぶ ・ ソーシャル・メディアに関する技術的話題に触れる ・ 生体認証の技術的な基礎知識とその活用事例について ・ 社会に貢献する「情報」の可視化について学ぶ	情報の価値 ソーシャル・メディア 人工知能 生体認証 情報の可視化
情報化の役割と課題	丹羽 量久	情報化により時間的・集積的・共有的などさまざまな価値が生まれます。この社会で実際に情報化された事例を取り上げて、その価値・応用について調べ、考えます。 情報社会における情報化の役割・価値・課題について理解し、説明できることを目標とします。	情報社会 情報システム デジタル情報
ソフトウェアの利用技術	丹羽 量久	ある問題を解決していく過程において、複数のアプリケーションソフト(データベース、電子書籍、その他)を活用していく方法について、演習を通じて学びます。 解決すべき問題に応じてアプリケーションソフトを適切に活用できるようになることを目標とします。	アプリケーション ソフトウェア 電子書籍 長崎県

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への取り扱う	A 人文科学の内容を取り扱う	B 社会科学の内容を取り入れる	C 現代的な話題を取り入れる	D アクティブ・ラーニングの活用
情報と社会	◎	○	○		◎	○	◎	◎	◎				○	◎	◎
情報化の役割と課題	○	◎	○	○				◎	○				○	◎	◎
ソフトウェアの利用技術	◎	○	◎	○						○	○			◎	◎
◎(特に重視)の数	2	1	1	0	1	0	1	2	1	0	0	0	0	3	3
○(重視)の数	1	2	2	2	0	1	0	0	1	1	1	2	0	0	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a19 ICTの仕組みと活用法		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	古賀 掲維	責任部局	ICT基盤センター
趣旨	今、私たちの身の回りには優れた性能をもったコンピュータが溢れている。コンピュータを自由に使いこなすことによって、一見不可能と思える問題を解決することができる。本モジュールでは、コンピュータの助けを借りて問題解決ができる能力(計算論的思考: Computational Thinking)を養うことを目的に、プログラミング、情報通信・ネットワークの仕組みやコンピュータを用いた仕事術について学ぶ。		
学生の皆さんへのメッセージ	必携パソコンや情報機器をさらに使いこなせるようになりたい学生の皆さんを歓迎します。是非、本モジュールで必携パソコンをより身近なツールとしてください。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	柳生 大輔	コンピュータやネットワークの要素技術や規格・プロトコル等を知ることにより、システムや構成要素がどのような仕組みで稼働しているか、どのような性能や信頼性をもって稼働しているかを理解することを目標とする。また「長崎」の通信の歴史におけるかかわり、離島・へき地における通信について学ぶ。	情報通信、コンピュータネットワーク、プロトコル、信頼性、長崎県
プログラミング入門	古賀 掲維	Python(パイソン)というプログラミング言語を用いて、プログラミングの基礎を学ぶ。また、基本的なアルゴリズムについてPythonを用いてプログラムを作成する。さらに、Pythonを用いたAIプログラミングにも挑戦する。	プログラミング アルゴリズム 人工知能(AI)
情報化時代の仕事術	古賀 掲維	皆さんは、ライフハック(Lifehacks)という言葉を知っているだろうか？ ライフハックとは「情報処理業界を中心とした『仕事術』のことで、いかに作業を簡便かつ効率よく行うかを主眼としたテクニック群」のことである。この授業ではいくつかのライフハックについて演習をまじえて学び、日常生活や学習・研究の場で活用できるようになることを目標とする。	ライフハック クラウド スマートデバイス

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を	C 現代的な話題を 取り入れる	D アクティブ・ラーニングの活用
情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	◎	○	◎		○		◎		○	◎			○	◎	○
プログラミング入門	◎	◎	◎	◎	◎			○						◎	◎
情報化時代の仕事術	◎	◎	◎	○				○	○			○		◎	◎
◎(特に重視)の数	3	2	3	1	1	0	1	0	0	1	0	0	3	2	
○(重視)の数	0	1	0	1	1	0	0	2	2	0	1	1	0	1	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目



## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a20 グローバル・アントレプレナーへの道		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	未定	責任部局	グローバル連携機構
趣旨	アントレプレナー(entrepreneur:「企業者」)とは、会社を興す起業家と勘違いしている人が多いですが、ここでは、「慣行の軌道乗り越えて信念をもって行動し、抵抗を克服していく資質」(P.132, Schumpeter (1950))のことであり、なんとなく昔からあることを考えずに無自覚、無批判に繰り返すのではなく、「何かおかしい!」と疑問を持ち、どんな困難にぶつかっても新しい価値を生み出し、社会を、世界を、1ミリでも変える人のことです。このアントレプレナーシップを涵養するには、座学だけでなく、エクスポージャーを広げる(経験値を高める)実践が不可欠です。サイエンスとアートの両方を磨き、グローバルに様々な分野で活躍するグローバル・アントレプレナーシップを身につけます。		
学生の皆さんへのメッセージ	アントレプレナー(entrepreneur:「企業者」)たらんとするものは、3つの資質が不可欠です。1つは、「ラディカル」な思考、嘗て丸山眞男が説いた、「物事の原初的な、本源的な思考」です。常識を疑い、おかしいと思う根源的な問いを期待します。2つには、真の教養。「すべての事について何事かを知っており、その何事かについてすべてを知っているもの」を教養人と呼びます。何事かをなさんとする知性には限界や区切りはありません。「蝸壺」を脱し、真の知性と教養の回復を期待します。3つには、結果にコミットすること。この授業では、教育の極北を目指します。プロセスではなく、結果。その一意専心の姿勢によって初めて開眼するでしょう。今後、皆さんがグローバルなメガコンペティションに取り残されるか、飛翔するか、その学びに向けたマインドセットを変えるためのアリーナを提供します。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
グローバルアントレプレナーの教科書(序)	未定	グローバル・アントレプレナーシップとは何か。その哲学的基礎を踏まえ、マインドセットをかえるための準備と、グローバル・アントレプレナー列伝として構成される。マインドセット(アート)、戦略論(サイエンス)、兵站(クラフト)の3分野で体系的に学ぶ。	アントレプレナー イノベーション(新機軸)
グローバルアントレプレナーへの道(破)	未定	グローバル・アントレプレナーに向けた実践編の前編である。課題発見能力こそが、アントレプレナーの条件であってみれば、ここではその実践を通じた知的探求を進める。如何にエクスポージャーを高めるか、3回の集中講義、と仮説ピッチ、集中合宿(予定)での実践を通じて、真のアントレプレナーを目指す。	課題発見能力 マーケットイン クラスタリング テストマーケ
グローバルアントレプレナーへの道(急)	未定	グローバル・アントレプレナーに向けた実践編の後編である。持続可能性をにらみながら、世界を1ミリでも変える、グローバルな「システムメーカー」たらんとする実践である。3回の集中講義と最終ピッチ大会への参加、集中合宿(予定)という実践を通じて、真のアントレプレナーを目指す。	スタートアップ 投資ピッチ ビジネスくんち

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応											※授業編成の視点			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
グローバルアントレプレナーの教科書(序)	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○
グローバルアントレプレナーへの道(破)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎
グローバルアントレプレナーへの道(急)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎
◎(特に重視)の数	1	2	3	2	3	2	3	2	2	3	0	0	3	2
○(重視)の数	2	1	0	1	0	1	0	1	1	0	3	3	0	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a21 グローバル社会とコミュニケーション		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	青木 恒憲	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	このモジュールでは、世界人口、国際援助という視点からグローバル社会をより深く理解するための知識と教養だけでなく、自らの考えを伝え相手の考えに共感できる相互理解を進める方法を身につけます。具体的にはグローバル社会の多様性を理解するために、世界人口の分布と変化を人口学的に把握する方法を学び、更に地球上で今なお貧困による経済、社会的困難に苦しんでいる人々に対して世界がどのように対処しているかを開発援助の面から学びます。そして、現代社会で求められる異文化とのコミュニケーションも受講することによって、グローバル化された世界における社会の状況とそこで活躍するために求められる能力は何か理解を深めます。		
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進展する中、日本人も異なる文化、歴史、習慣を持つ人々との社会での共生と無縁ではられません。従って、これからは日本社会もグローバル社会の一部である、という認識が必要であり、このモジュールでは国境、国家にとらわれず地球規模で活躍する人材の育成を目指しています。そこでは語学力だけでなく、自身が目指す人材に必要な基礎的な知識や教養、更には国籍問わず社会背景、文化が異なる人々とのコミュニケーション能力を持つことが求められます。		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
異文化接触とコミュニケーション	古本 裕美	現在、長崎大学には約 600 名の外国人留学生がいる。長崎や日本に観光に来る外国人、日本で暮らす外国人の数は、年々増加している。それに伴い、我々が街で外国人に会う機会は今後ますます増えることだろう。この科目では、まず、“やさしい日本語”を学び、自分が普段使っている日本語やコミュニケーションの仕方を振り返る。その後、外国人を含め、いろいろな人が共に暮らすために必要なもの・ことについて考える。	日本語 “やさしい” コミュニケーション 社会
世界人口の動向と国際開発	松村 真樹	日本や欧州のみならず、アジア諸国においても急速な少子高齢化が進む昨今であるが、その一方で、高い人口増加率が依然として続いている開発途上国もある。人口動態を見ることによって、世界の多様性が見えてくる。同時に、貧困と格差、人種・民族間の対立、移民・難民の現状など、さまざまな課題も浮き彫りになる。人口学的視点からグローバル社会の変化と多様性について理解を深める。	人口転換 国際人口移動 人口高齢化
国際協力と開発援助	青木 恒憲	現在の国際援助の枠組みは第二次世界大戦後の復興支援を通じて形成され、日本の開発途上国への協力も国際情勢の影響を受けてきた。そして国際社会が政治、経済、文化の面で益々グローバル化する中、現在は先進国、途上国、加えて官民間問わず地球規模での国際協力のあり方が問われている。この科目では日本の政府開発援助(ODA)を中心とした開発協力の役割と現状を理解した上で今後の国際援助の方向性を考察する。	開発協力 ODA 国際協力

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
異文化接触とコミュニケーション	○	○			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
世界人口の動向と国際開発	○	○	◎	◎	◎		◎			◎		◎	◎	○
国際協力と開発援助	○	○		◎	○		◎			◎		◎	◎	○
◎(特に重視)の数	0	0	1	2	1	0	3	1	1	3	1	2	3	1
○(重視)の数	3	3	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a22 文化と対人関係		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中島 ゆり	責任部局	大学教育イノベーションセンター
趣 旨	<p>今日、コミュニケーション力は社会人基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。一方で、コミュニケーションの能力は複合的であり状況に依存して発揮される能力であるため、ねらいを定めて育成していくことが容易ではない能力だと言えます。</p> <p>我々は、特定の文化圏に生まれ、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育っていきます。つまり、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分に成長してきているともいえるのです。現代はコミュニケーションのためのメディアが日々変容しており、我々が成長している環境＝コミュニケーションの文脈も多様化・複雑化しています。</p> <p>そのような状況におかれている我々が、互いに信頼を深めながら関わり合いを豊かにしていくためには、自身のコミュニケーション習慣を自覚化するだけでなく、コミュニケーションが生じている状況についての深い洞察が求められます。その上で様々な背景をもった人々とも機能的に関わるのできる、柔軟な対応力を身につけることが不可欠と言えます。本科目群では「信頼」をキーワードとして、哲学、身体心理学、社会学、それぞれからの学際的視点でこの課題に取り組みます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	哲学や社会学に関心のある方、また他者と協働して学習を進めていくことに前向きである方を歓迎します。		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
対人関係を考える	岡田 佳子	対人関係に絡む現代的な諸問題について学習し、グループワークを通じて解決に向けた方策を考えていく。 また、そこでの関わりから、人の多様性について考える力を身につける。	文化的再生産、学校文化、ジェンダー、ファシリテーション
身体関係論	北村 史	自己と身体との関わり、および身体と外界との関わりについて理解を深めながら、対人関係における感受性や表現力を高める体験学習を行っていく。	非言語行動・身体アウェアネス・ワークショップ
他者理解とバイアス	中島 ゆり	人は他者を判断するとき、「無意識のバイアス」に依拠しがちである。対人関係を築く上で自分自身がどのようなバイアスを持っているか、それによってどのような問題が生じる可能性があるかを考えていく。	無意識のバイアス、社会階層・人種・ジェンダー、社会学

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
対人関係を考える		◎	○		◎		◎	○	◎			○	○	◎
身体関係論		◎			○		◎	◎	◎	○				◎
他者理解とバイアス					◎				○		○	○		○
◎(特に重視)の数	0	2	0	0	2	0	2	1	2	0	0	0	0	2
○(重視)の数	0	0	1	0	1	0	0	1	1	1	1	2	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	20-a23 グループ・コミュニケーション		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	當山 明華	責任部局	大学教育イノベーションセンター
趣 旨	<p>今日、コミュニケーション力は社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。他方で、我々は皆ヒトという生き物として、また特定の文化圏に生まれた者として、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育ってきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。したがって、コミュニケーションの実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえているコミュニケーション状況を明らかにし、その上で各自のコミュニケーション力をより機能的なものにしていくことが有効です。</p> <p>本科目群では、前期に生物学と音楽というそれぞれの分野から多様なコミュニケーションのあり方について理解します。後期はリーダーシップを媒介とし、各自の関心に応じた課題を設定し、それらの解決策について学習することを通して、コミュニケーションの深い理解に基づいた実践力向上を目指します。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識はとくに問いませんが、コミュニケーションについて広く関心のある方、また他者と協働して学習を進めていくことに関心のある方を歓迎します。科目内容だけでなく、他の学生や担当教員とコミュニケーションを実践し、技能の向上を目指します。</p>		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
コミュニケーションの生物学・臨床医学	岡田 二郎 田中 悟郎 徳永 瑛子	前半は、ヒト以外の動物におけるコミュニケーションについて、行動の進化と生理過程に着目して学ぶ。後半は、ヒトのコミュニケーションについて、基本的な脳機能と、障害をもつ事例から学ぶ。	進化、行動、感覚、脳機能、認知
音表現とグループ・プロセス	西田 治 小原 達朗	音を媒介としたコミュニケーション、スポーツにおけるサインなどの情報伝達のあり方を体験的に理解する。前半8回がスポーツ、後半8回が音楽に関する内容を扱うが、スポーツ、音楽の得意、不得意は全く問わない。	グループ・プロセス、参与型音楽
人間関係の心理学	當山 明華	自己と他者とのコミュニケーションだけでなく、自分自身とのコミュニケーションについての理解を深める。協同学習を通して、人の多様性を理解し、生活に活かす。	思考パターン、判断基準、対人コミュニケーション

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を	C 取り入れる 現代的な話題を	D アクティブ・ラーニングの活用
コミュニケーションの生物学・臨床医学	◎				◎		○	○	○			○	◎	◎
音表現とグループ・プロセス		◎			○		○	◎	◎		○		○	◎
人間関係の心理学	◎	◎	○	○		○	◎	○	◎	○	◎		○	◎
◎(特に重視)の数	2	2	0	0	1	0	1	1	2	0	1	0	1	3
○(重視)の数	0	0	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目